

# Territory Gone Wild / ULTRA STUDIO

## 12: 《直接照明》合板、アクリルミラー

唐突に現れるフットライトの直方体。地面を効果的に照らす  
が本体の視認性が低く危ない。反射板を付ければ本体も照らせる  
のではないかと。しかし反射により光源も露わになってしまうか  
もしれない。

## 10: 《よりサインらしく》単管パイプ、布

分岐する道の片側には続きがない。そのことを暗示するランニ  
ングコースのサインは小さく目立たない。背景を膜でマスクす  
れば目立つだろうと考えたが、裏からの視認性が求められたた  
め、膜を円形に切り取った。結果、マスクでもありフレーミン  
グでもある両義性を獲得した。

## 8: 《複製技術時代のベンチ》スタイロフォーム

日向に置いてあるベンチを安価な素材で複製し日陰においた。  
オリジナルと複製の価値の差は素材にあるのか、位置にあるの  
か。

## 6: 《躓くと気づく風景》養生マット

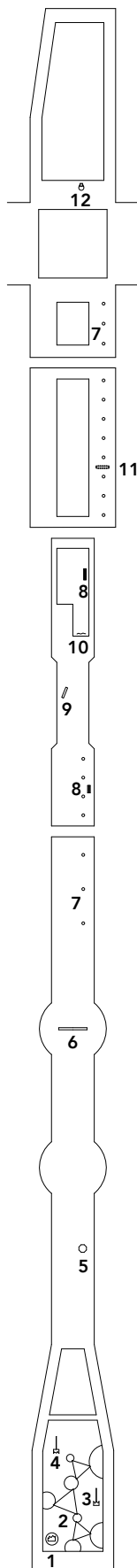
橋は進行方向の軸線を感じさせる。一方、直交方向へ目を向け  
ると首都高湾岸線や、ゆりかもめがこの場所を象徴しているこ  
とに気づく。そうした風景に向けられた赤いカーペットは躓ん  
でよいのか迂回するべきかという困惑とともに、風景への気づ  
きをもたらすだろう。

## 2: 《囲いこみ》スタイロフォーム、単管パイプ、布

「エンクロージャー」の訳。歴史的には共有地を囲いとること  
で共同体的諸規制から解放された自由な場所が生まれるとされ  
てきたらしい。円形の囲いは低すぎ、三角の囲いは高すぎたた  
め、そうした囲いの中の特権性を全ての人に付与してしまう。

## 1: 《大切なものが守られている》合板、シート

バクの銅像は元々触られないように囲われていたが心許なか  
ったため囲いをより強固にした。サインを施しイベントのエン  
トランスを明示する役割に転用した。解体を待つ観覧車を背景  
に記念撮影をしてほしい。



## 11: 《氷のベンチ》グラスウールボード

既にあるベンチを氷で複製した。冷たくて気持ち良いベンチを  
目指したが、炎天下で溶けてしまうため断熱材で覆った。日々  
少しずつ溶けて形を変えて行くだろう。

## 9: 《排除の転倒、シェーズロング》スタイロフォーム

ベンチの間に施された照明の箱は排除ベンチを思わせる。しか  
し上面が平らなのでその効果は弱い。排除性を高めるために山  
型の囲いを付けたが勾配を緩くし過ぎたため、むしろ快適な背  
もたれとなってしまった。

## 7: 《人、虫、何かのための光》PVCシート

青、黄、ピンクの三色の照明がプロムナードの正しい道を明示  
する。色は見る人の記憶と結びつき意味を帯びる。例えば青は  
電撃殺虫器を思わせるが、電撃はなく殺虫機能もない。

## 5: 《灯台もと明るし》スタイロフォーム

橋の上の灯台のような照明。灯台は元来遠方に向けて光を放つ  
ことが役割でその本体や近傍は重要ではない。灯台もと暗し。  
その暗い足もとこそが自由さを象徴する。

## 4: 《バランあるいは排除の転倒》合板

植え込みや並木に馴染む巨大でキッチュなバラン（弁当箱の仕  
切り）。人を寄せ付けない外見はひっくり返すことで、愛らし  
さを獲得する。

## 3: 《人々への散水養生》ホース、単管パイプ

芝生への散水をより広範囲にいきわたらせる目的で高い位置に  
設置した。夏の日差しの下、芝だけでなく人々もまたこの恩恵  
を享受する。

## ULTRA STUDIO

向山裕二、上野有里紗、笹田侑志からなる建築コレクティブ。2013年に結成。日本とヨーロッパで経験を積み、2018年より東京をベースに設計活動を開始。都市文化を批判的にとらえなおしつつ、建築的介入を創り出す活動をしている。www.ultrastudio.jp